

モデル事業名	“牛鬼の里 うわじま” 消えない集落づくり事業
活動団体名	大平を楽しむ会（事業継承団体。採択時はうわじま虹色ツーリズム協議会）
ホームページ	http://ohira-marutagoya.blogspot.com/
所属/ 担当者名	ご担当者氏名（お問合せ先） 事務局 大塚 志織
連絡先	090-1572-9997 E-mail uwajima.sakura.N01@gmail.com
活動地域	愛媛県宇和島市

● 活動地域の概要

【愛媛県宇和島市】

- ・集落数 489集落（うち限界集落 30集落）
- ・人口の推移 S55（ピーク時）110,920人 → H22（12月現在）86,541人
- ・高齢化率 H22（12月現在）30.5%
- ・年齢別人口構成の推移

	年少人口 (%)	生産人口 (%)	高齢人口
H17(合併時)	11,875(12.8)	54,869(59.3)	25,741(27.8)
H22(12月現在)	10,274(11.9)	49,842(57.6)	26,425(30.5)

- ・公共交通に関する状況
 - 四国横断自動車道直近 西予市宇和 IC（平成23年度末 宇和島市津島 ICまで開通予定）
 - 民間路線バス 38路線（朝夕中心の時刻表） 広域路線14本 市内路線24本
 - コミュニティバス 7路線 89.24キロ運行
 - 鉄道路線 予讃本線特急 一日16本 予土線 一日13本
- ・雇用の状況 有効求人倍率 H22（10月現在）0.67

【位置図】

【中山間だけではなく商店街の一角にまで限界集落が拡大】



● 活動地域の課題

- 1 少子高齢化、人口流出によるあらゆる分野での担い手不足
- 2 第一次産業の疲弊と雇用低迷
- 3 耕作放棄地、空き家、水利等の問題に対応する集落機能の弱体化
- 4 全市レベルでの限界集落問題や、コミュニティ維持に対する危機感の欠如

● 活動の内容

（全体）

活動①：集落調査と記録収集

集落の歴史や風習などの記録収集の実施。

活動②：血縁者や支援者にターゲットを絞った都市農村交流

血縁者など住民にゆかりのある人材を対象とした小さな都市農村交流イベントの実施

活動③：丸太小屋大作戦の実行と「新しい公共」組織の法人化

小さな都市農村交流を実施するための、集まりあえる拠点施設の建設と「新しい公共」となる組織の法人化

活動④：モデル地域から圏域全体へ啓発と発信

当該地域の事例や成果についてシンポジウム等で発表したり、HPや取材を通じての発信を実施。

(直近1年間の進捗など)

活動①については、ライフワークとして、引き続き、地道な記録収集を実施している。活動②については、本年、中心となる「家族」に立て続けに不幸が起きたことや、事業展開のための作業を行う専任者がいなくなったことなどから全体が集合できる盆踊りや亥の子などの大掛かりなイベントが実施できなかった。そのため、年末年始に帰省者に顔あわせしてもらう手段として、集会所にて写真展を開催予定。活動③、④についても、亀の歩みで前進中

● 活動の成果

・全体

「集落調査と記録収集」

集落の歴史や基本となる情報の収集は終了。地域における評価としてもこれまでのことを見直し、古きよき時代を慈しむ良い刺激となった。

「血縁者や支援者と都市農村交流」

新しいことを仕掛けるのではなく、過去に実施していたり、今現在の暮らしをベースとした事業の推進により、集落を取り巻く人々の意識に変化が起きた。

「丸太小屋大作戦の実行と「新たな公」組織の法人化」

拠点としての「丸太小屋」の建設については、これまで遠くで見守っていた方々が、意見を出し合うようになり、より良い施設のあり方を討議しながら複数案を調整していくこととなった。またこれに携わる役目として、都市から招聘していた若者4人のうち、2人が定住、就職し、地域住民となった。



盆踊りの復活



2名が定住

・直近1年間の成果など

この1年間は、結果的には、補助事業の打ち切りを受けて、これまでのことを見直すきっかけの一年となった。

モデルとなる大平地域では、大きな動きはなかったものの、高速道路の無料化効果および、悲しいことではあるが、訃報が重なったことにより、他出者である集落の関係者が帰省する頻度や、関係者が顔をあわせ、集落の今後について話す機会という意味では一番多い一年であったと言える。

また、当該エリアの中心市街部となる「岩松」地区で商店街の中に、限界集落が発生したことを受け、にわかに市民レベルの感心も高まりつつあり、雑誌の取材に始まり、圏域におけるシンポジウムの分科会でも取り上げられるなど、じわじわと周辺波及効果が始まった感はある。



住民より多い
草刈り応援隊



地域応援セミナー

● 今後の課題及び展望

・課題（活動を通して発見された課題等を記入）

1 人材確保

一人一人が重要なキーパーソンとなる限界集落では、弔事や介護などの個々の家族問題が切り離せず、事業推進にあたっては、代わりがきかないことが多いことが遅まきながら判明。速やかにサポートができる人材の確保と整理が急務の課題。

2 話し合いの場作り

何を話しても重い話題になりがちのため、きっかけとなる話し合いの場を常に作ることで、そこに来ってもらうための飽きない仕掛け作りも課題。じわじわと増加傾向にある他の限界集落においても、同様の支援が必要。

・展望

1 耕作放棄地や空き家の管理とあっせんのための仕組みを確立させ、土地の荒廃を防ぐとともに、人材を確保

2 へんろ休憩所兼都市農村交流拠点として丸太小屋の建設と、地域のペースにあった、都市農村交流事業の恒例化を進めつつ、集まりあう機会を更に増やす。

3 他地域へ波及させるための地道な啓蒙活動。

● その他（自由記述）

本年度は、モデル地区内で立て続けに3件の弔事があり、予定していた事業が進まなかったが、仮に補助を受けていた場合は、無理やり事業を推進し、地域に「疲労」を感じさせる結果となっていたように思う。集落の住人はほとんどが、高齢者であり、激変を避け、住民のペースで着実にすすめていきたい。

また、蛇足ではあるが、当該事業に関わり続けてきた担当の自分自身が、海岸部の過疎地域へ異動となったため、その地域での「新しい公共」のあり方について伝播していけることも一つの効果と考えたい。